昇 降 式 移 動 足 場
『アップスター３６ＳＡ』取扱説明書

平成　１９年　６月

日鐵住金建材株式会社

目次

使用上の基準 ---------- 1

仕様・組立図 ---------- 2

組立手順 ---------- 3

解体手順 ---------- 6

メンテナンス ---------- 7

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ正しくお使いください。

使用基準

1．アップスターを使用するにあたって

（1） 作業者には、あらかじめ安全な使用についての教育を行うこと。
（2） 複数の人数で使用するときは、作業を指揮する者を選任し、その者に作業を指揮させること。
（3） 手摺、中桟等を止むを得ず取外したときは、安全帯の使用等墜落による作業者の危険を防止するための措置を講ずること。なお、取外した手摺等は、その必要がなくなったとき速やかに元の状態に戻すこと。
（4） 作業中は保護帽を着用すること。また、安全帯の使用を命ぜられた場合には、安全帯を使用すること。
（5） 作業中に関係者以外の者が、作業区域内に立ち入ることによる危害を防止するため、その周辺には柵、囲い又は標識等により立ち入り禁止区域を明示すること。
（6） 作業を安全に行うため、作業に必要な照度を確保すること。
（7） 作業床上では、脚立、梯子等を使用して作業しないこと。
（8） 複数のアップスターを併置し、その上に足場板等を掛渡して作業床として使用しないこと。
（9） 目的外の用途には使用しないこと。

2．アップスターは、みだりに分解・組立を行わないこと。

3．アップスターの移動にあたって

（1） 原則として作業床を最低の高さに下降させた後に行うこと。
（2） 作業者を乗せたまま行わないこと。
（3） あらかじめ、床面の凹凸、障害物等の状態を確認し、移動中の転倒を防止すること。

4．アップスターの設置にあたって

（1） 平坦かつ水平な場所で使用すること。
（2） 不意の移動を防止するためブレーキ、アウトリガーを確実に使用すること。

5．アップスターに荷を積載する等にあたって

（1） 最大積載荷重の表示を確認し、これを超えないこと。
（2） 材料等を載せるときは、転倒防止のため偏心しないように配慮すること。
（3） 手摺・巾木等に荷を載せないこと。

禁止

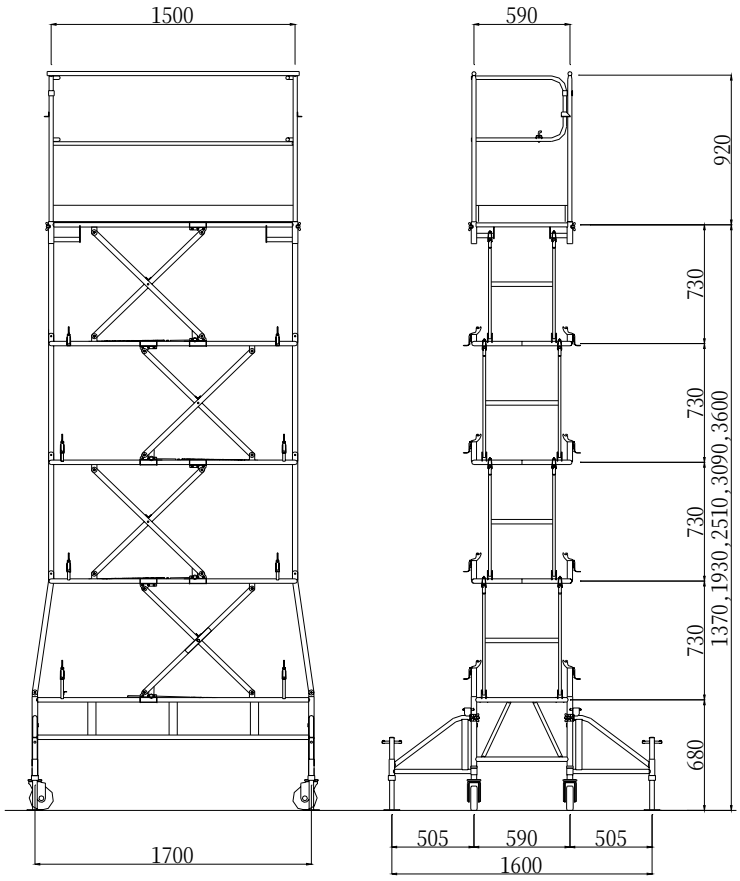
1．積載荷重以内で使用して下さい。
2．移動・転倒防止のため、車輪はすべてブレーキを効かせ、アウトリガーは必ず正規の方向に広げて使用して下さい。
3．人を乗せたまま、移動させないでください。
4．上昇・下降時に、摺動部等に触れないで下さい。

作業の省力化・効率的に最適な昇降式移動足場アップスター

高所作業から天井仕上げ作業まで、あらゆる作業に適した高さが、簡単に・能率的にかつ安全に確保できます。
軽量で強靭性に優れ、しかも、１人で操作が出来るように設計された昇降式移動足場です。

仕様

作業床寸法	巾　５９０ mm
	長さ１５００ mm
作業床高さ最低	１３７０ mm
最高	３６００ mm
高さ調節５段階	３６００ mm
	３０９０ mm
	２５１０ mm
	１９３０ mm
	１３７０ mm
自重	約１９２ｋｇ
	（手摺枠・巾木材を含む）
駆動装置	手動式
	（バネバランス方式）
積載荷重　１３１０Ｎ（１３３ｋｇｆ）	
	（作業者を含む）
表面処理	溶融亜鉛めっき
	（一部電気めっき）



品番

ＵＳ－３６ＳＡ

組立手順

1．組立前の注意事項

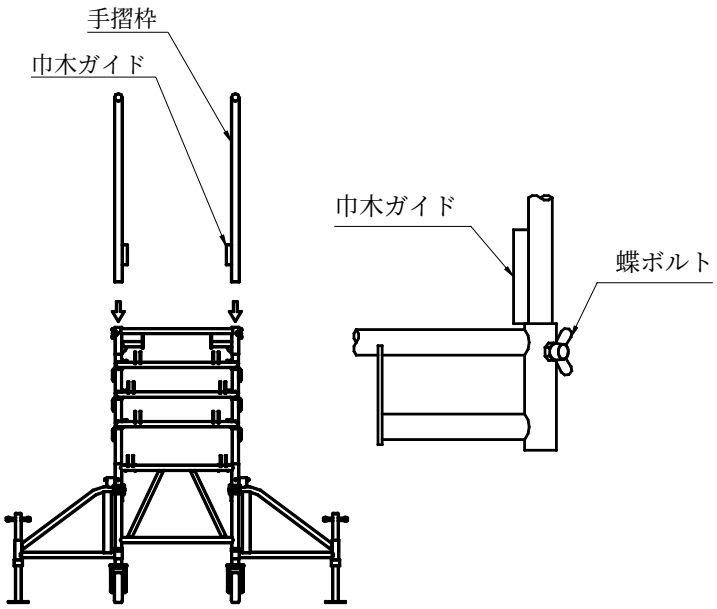
（1） 組立作業主任者は、作業員の保護帽の着用等安全服装を確認のうえ、作業内容、安全上の諸注意を説明し徹底させる。

（2） 使用場所の平坦度及び、上空空間の安全性を確認し、使用高さ（１３７０、１９３０、２５１０、３０９０、３６００mm）を決定します。

2．組立手順

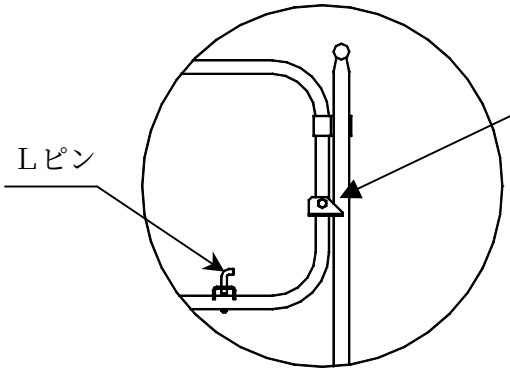
（1）手摺枠の取付け

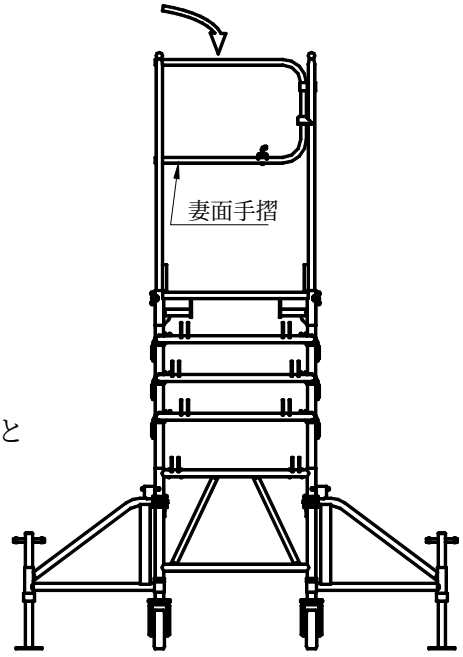
手摺枠を巾木ガイドが内側方向を向くように、上部フレームの四隅のパイプに差し込みます。（蝶ボルトは手摺枠､妻面巾木セット後締め付け、手摺の揺れを防止します）



（2）妻面手摺の開閉

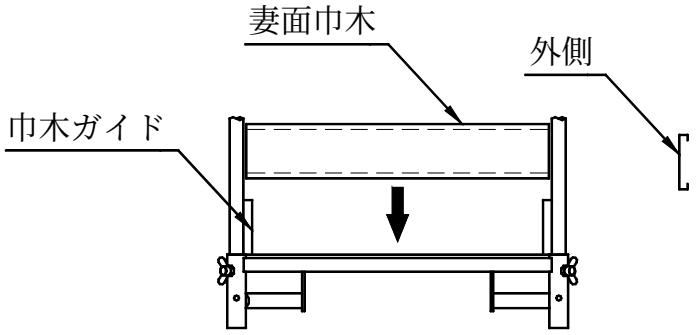
妻面手摺は、手摺枠に収納されています。固定用のＬピンを上部に上げ、妻面手摺を手前に回転させ、落下錠が相手の手摺枠に当たりロックがかかれば完了です。このとき、妻面手摺が必ず内開きであることを確認して下さい。（手摺枠の方向を逆に差し込まないで下さい。逆にした場合、妻面手摺に荷重をかけた際、妻面手摺が作業床の外側に外れ、大変危険です。）





（3）妻面巾木の取付け

妻面巾木を巾木ガイドに差し込みます。（フラット面が外側）



（4）手摺枠固定用蝶ボルト

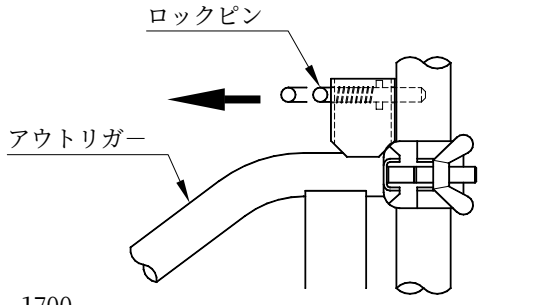
手摺枠・妻面巾木の設置を完了すると、各手摺柱（４本）の蝶ボルトを確実に締め付け、手摺枠の揺れを防止して下さい。

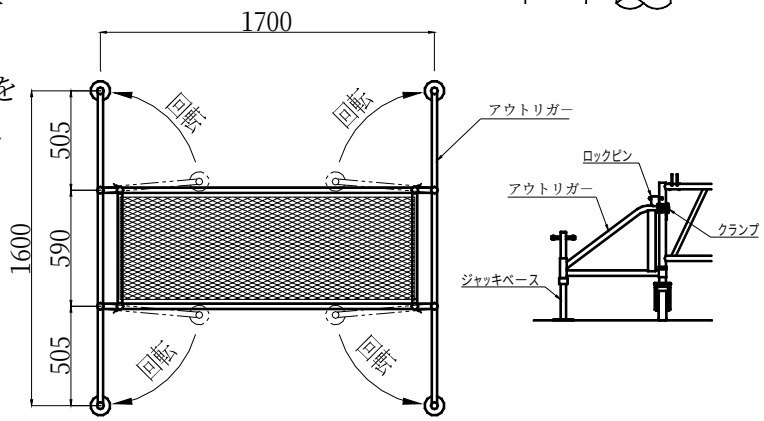
（5）アウトリガーの設置

アウトリガーは、下図の方向にして必ず使用して下さい。

① アウトリガーを所定の方向に回転させ、アウトリガーのクランプを確実に締め込み固定します。アウトリガーを回転させ、ほぼ所定の位置に来れば自動的にロックピンが作動します。

アウトリガーを収納するときは、クランプを緩め、ロックピンを摘まみ**ロックを解除**してから回転させて下さい。





（6）１段目の昇降

① １段目のフレーム止金具（桁行き方向に左右各２個所）を外し、上部フレーム（床面）を持ち上げて下さい。（バネが内蔵されておりますので、軽く持ち上がるようになっております。）

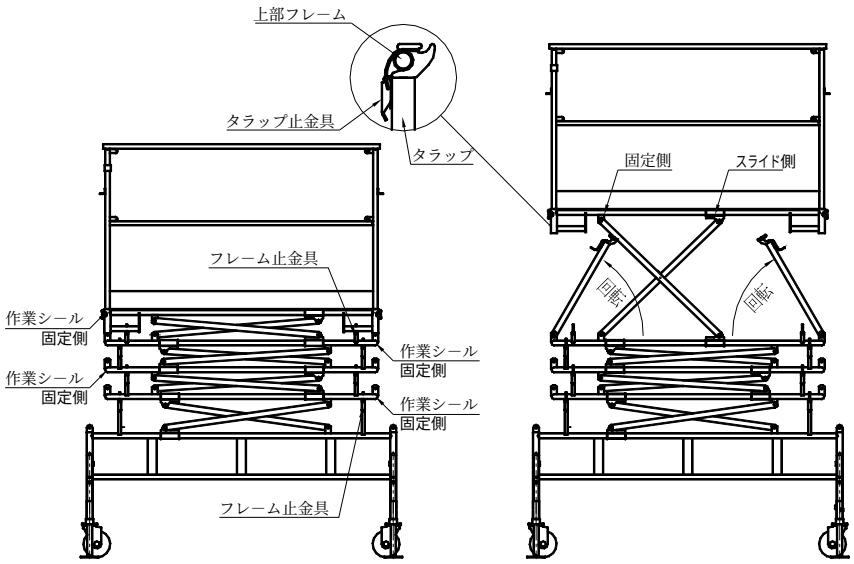
上昇（下降）作業は、スライド枠の固定側（「操作時は必ずここを持って下さい」シール貼付側）にて作業して下さい。

注意：上記シールの反対側にて作業を行いますとスライド枠が変形する恐れがあります。

② 本体内側に折り畳んだ左右のタラップを起こし、上部フレームの横地に合わせ、先端のタラップ止金具（左右各２個所）を締め付けます。

（7）２段目の上昇

１段目と同様にフレーム止金具(桁行き方向に左右各２個所）を外し、フレームを持ち上げてから左右のタラップを起こし､タラップ先端のタラップ止金具を締め付けます。**上昇（下降）作業は､スライド枠の固定側（「操作時は必ずここを持って下さい」シール貼付側）にて作業して下さい。**



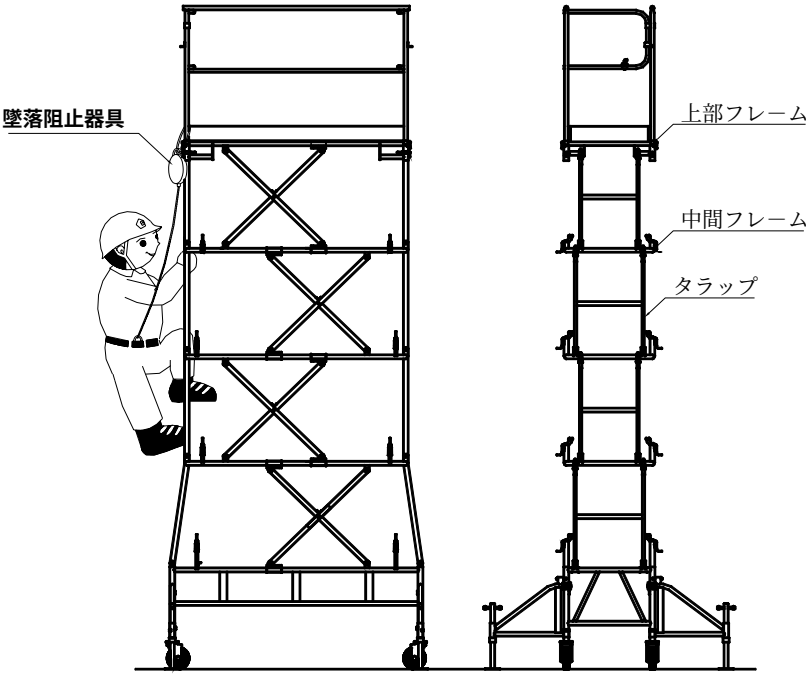
（8）３、４段目の上昇

前記と同様に作業します。

（9）作業床への昇降

作業床への昇降にはタラップを利用し、リトラクタ式墜落阻止器具等を使用して下さい。(落下阻止器具は手摺柱の根元付近、または中桟手摺直上の手摺柱に取付けて下さい。

昇降の際は、必ず車輪４点に荷がかかっていること、アップスター本体が水平になっていること、アウトリガーが確実に固定された状態でジャッキベースを地面（躯体）につけていること等を確認して行なって下さい。



（１０）横移動

横移動される場合は、次の手順です。

① 原則として作業床を最低の高さまで下げてからアウトリガーのジャッキベースを上げます。

② アウトリガーのクランプを緩め、位置決め用ロックピンを摘まみ**ロックを解除**してからアウトリガーを折り畳みます。キャスターのブレーキを解除して所定の位置に移動します。移動に関しては、天井等上空空間の安全性を確認して行って下さい。

③ 人を乗せたまま、移動させないでください。

（１１）注意事項

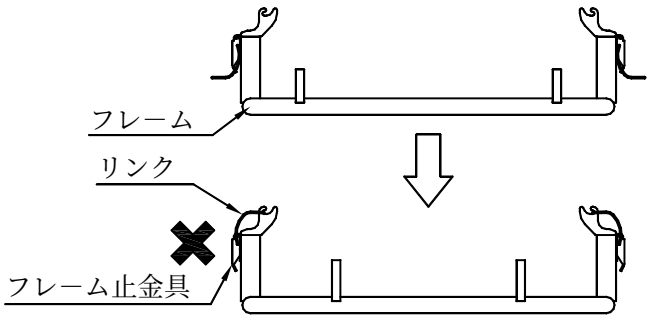
上昇・下降時には、摺動部、受け金具等を指・手で触れないで下さい。指詰め等発生の危険があります。

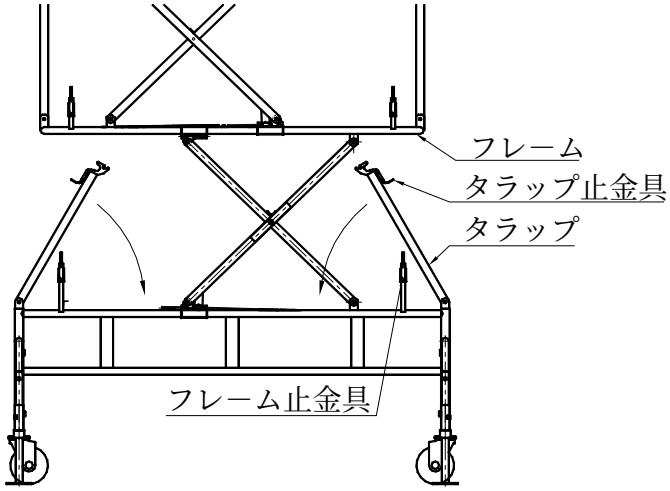
3．解体手順

（1）最下段の下降

① 最下段のタラップ止金具（左右各 2 個所）を外し､タラップを内側へ確実に折り畳みます。

② フレームの「**操作時は必ずここを持って下さい**」シール貼付側を持って下降させます。このとき、下降するフレームにフレーム止金具のリンクが噛み込まないように注意して下さい。





③ 下降後は、フレーム止金具（4 個所）を確実にセットし各フレーム間を固定して下さい。

（2）2、３段目以降の下降

① 最下段と同様にタラップ止金具（左右各 2 個所）を外し、タラップを内側へ確実に折り畳みます。

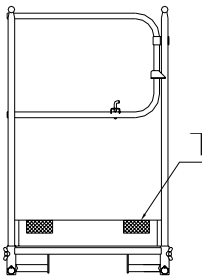
② フレームの「**操作時は必ずここを持って下さい**」シール貼付側を持って下降させフレーム止金具をセットし、各フレーム間を固定します。

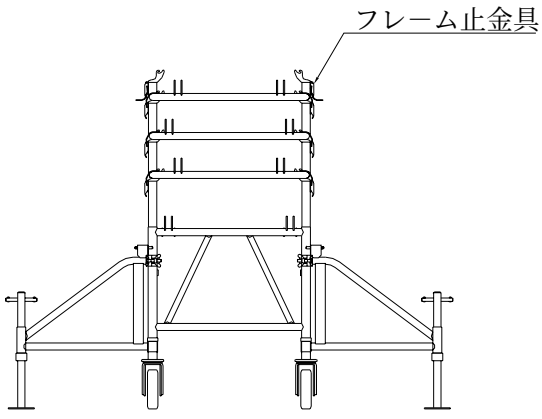
（3）最上段床の下降

① タラップ止金具（左右各 2 個所）を外し、タラップを内側へ確実に折り畳みます。

② 左図のとおり「操作時は必ずここを持って下さい」シール貼付側の巾木上部を持って最上段床を下降させます。

③ 下降後は、フレーム止金具（4 個所）を確実にセットし各フレーム間を固定して下さい。

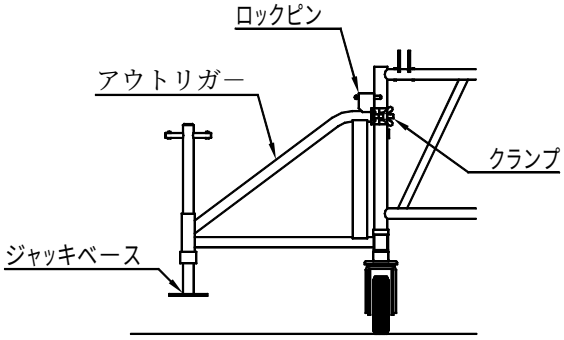




（4）アウトリガーの収納

① アウトリガーのジャッキベースを上方に回転させます。

② アウトリガーのクランプを緩め、アウトリガー位置決め用のロックピンを摘み**必ずロックを解除**し、アウトリガーを収納して下さい。



（5）手摺枠・巾木等の取外し

① 手摺枠の蝶ボルトを緩め、巾木を取外します。

② 最後に手摺枠を取外し、解体が完了となります。

メンテナンス

1．日常点検

（1）使用に当たっては、部材の点検を行い不具合部は、補修または取り替えを行い使用する。

（2） バネは、出荷時調整しておりますが、作動状況を確認し、動作不良の場合は下記の通り調節して下さい。

① バネを調節する必要がある段のフレームを上げ、

② バネ取付け部の蝶ナットと内側のナットを緩めてから、蝶ナットにてバネ材の調節を行って下さい。

上昇が困難な場合：バネを引き込みます

降下が困難な場合：バネを緩めます

③ 内側のナットを締めて（緩み止め）完了します。

2．保管

（1）保管は原則として屋内保管とし、屋内保管が無理な場合は、シート等により養生して下さい。

（2）特に、回転部・スライド部の管理に注意して下さい。

以上